

2010.8.25

活動先
生活支援センター
わたぼうし

津田 佳織 永谷 理絵



生活支援センターわたぼうしは、学童保育や児童デイサービス事業などの活動をしています。末盛クラスの2人の学生



が提案したのは、夏休みの思い出づくりに、「歩いて「空の科学館へお出かけ」」という企画です。片道1時間の道のり。行き帰りのルート、休憩場所、危険箇所の確認、プラネタリウムの予約など、実際に歩いて計画を立てました。

8月25日の当日は、晴天に恵まれたものの、たいへんな猛暑でした。出発は10時30分、参加児童は44名、高学年と低学年が隣どおしの2列縦隊で歩行。指導員4名、サービスマーニング学生2名の大集団は助け合いながら全員無事、空の科学館へ到着。

施設内での楽しい展示や遊べるコーナーでは、子どもたちは、一転して生き生きと走り回っていました。その後、お弁当を食べたり、プラネタリウムを見学したりしてから、14時45分に帰途につきました。

指導員の一人である増井さんは、日本福祉大学の卒業生。学生にとって、その大きく優しい人柄は、まさにセンパイ！頼りになる存在だったようです。



子どもたちの
笑顔が輝く時が、
大好きです。



生活支援センターわたぼうし
《学童保育事業》
わたっこクラブ 学童指導員

そのセンパイから、お話を聞きました。

増井 千帆美さん

●社会福祉学部社会福祉学科 2009年3月卒業

Q. 現在の職場を選んだきっかけは？

学生の時、ほぼ毎日、学童の指導員のアルバイトをしていました。まだまだ甘えん坊の低学年、ちょっと大人に反抗心がある高学年。そんな子どもの気持ちを受け止めている中で、学童の指導員としてのおもしろさや子どもといふことの楽しさに目覚めて、この道を選びました。

「わたぼうし」を職場として選んだのは、地域の中で子育てをするという活動方針に魅力を感じたからです。

Q. やりがいやよろこびを感じることは？

もちろん！子どもたちの笑顔が輝く時！！例えば、昨年度のことなんですが、高学年キャンプで25km歩いてキャンプ場までい

くという大チャレンジをしたんです。足がいたい、どうして歩かなきゃいけないの、こんな気持ちを和らげてくれるのは、仲間との存在。励まし合いながら全員が完歩しました。目標を達成した子どもたちのきらきらとした笑顔、心の成長を感じることができたとき、こんな幸せなことはないと思いました。

Q. サービスラーニングという

取り組みについての意見・感想を。

先駆的な取り組みだと思います。学生が実際に地域社会(NPO)の中に出向き、主体的に関わる力を養うことは、これから社会にでていくための大きなステップになるのではないのでしょうか。この学びの中で、自分と向き合う機会を持ち方向性を定めていけ

ると尚よいですね。

Q. サービスラーニングに取り組む学生へ、メッセージをお願いします。

慣れないことの連続で、戸惑うこともあるかも知れませんが、学びに来ているのですから、小さな疑問でもどんどん聞いてほしいと思います。納得いくまで一緒に考えていきたいと思います。フレッシュな意見は私たちにとっても貴重なものです。また出来ないことを恐れないでください。出来ないことは当たり前、でも自分の出来る範囲のところを探せるように努力してほしいなと思います。ひとつひとつのことが、大きな学びとなって自分のものになります。自分に自信をもって、がんばってくださいね！！



日本福祉大学
サービスマーニング

サービスマーニングセンター

2010 News Letter

日本福祉大学サービスマーニングセンター発行

VOL.8 2010.10.20

NPO協働型サービスマーニングの5クラスの学生たちは、協働する知多半島の29のNPOの中から活動先を決定し、4月から7月にかけて、NPOの事前学習、活動計画の立案、活動先との事前打合せなどの学習を経てきました。そして8月・9月、事前の活動計画をもとに6日間の活動をおこないました。その一部を紹介します。受け入れていただいたNPOのみなさま、ありがとうございました。

2010.9.4

活動先
絆

鈴木 智也 万場 幸



村上クラスの鈴木くんと万場さん2人の学生が活動したのは、東浦町の地域で17年目をむかえたNPO絆。介護保険事業や会員制たすけあい事業など幅広く高齢者や障害者の方を対象に活動しています。

昨年、緑も豊かな広い敷地環境を得て、新築移転。室内は柱や梁を活かした明るく開放感のあるつくり。利用者や家族、そして地域の方々との出会い・安らぎを求めてきた「絆」として、その思いを実現できる場をやっと

得ることができそうです。思いを語っていただいた山崎理事長は、これを機にこれまでの出会いに感謝し、地域との交流をもっと深めていきたいと考えていたところで、学生らの提案である夏祭り企画は、その気持ちと重なり、第1回「きずなまつり」として実現しました。開催日は2人の活動の最終日にあたる9月4日です。



2人の学生の活動は、このイベントの企画提案、職員さんへの呼びかけ、そしてポスター、チラシをつくり、色塗りは利用者さんと一緒に行いました。町内のスーパーなどに掲出をお願いしたり近隣にポスティングもおこなってPRに努めました。

また、日本福祉大学の仲間たちに呼びかけ、前日の準備と当日の運営協力として、8名のボランティアを実現しました。2名は高校からの和太鼓仲間、6名は社会福祉学部の仲間です。

NPOスタッフに学生10人が加わり、祭りは盛り上がりしました。笑顔とかけ声が途絶えることのないゲームや食べ物のコーナー、力いっぱい何度でも行われた和太鼓の演奏。地域の方々をむかえて頑張ったこの活動は、学生たちにきっと大きな自信を与えたことでしょう。

- 👉 周りの人に楽しんでもらうには、まず自分が楽しく、やがて感じて動くことが大切だと思った。
- 😊 絆での活動を終えて、感じたのは「達成感」。たくさんの人に来てもらい、たくさん笑顔に出会えたことが一番うれしかった。地域の方にNPO「絆」を知ってもらおうという目標の1つが少しでも達成できたのではないかと思います。



☆まつり終了後の日本福祉大学生10名

サービスマーニング
今後の主なスケジュール

- 10.27 活動終了後のふりかえり会
- 11.3 キャスリン・デニス氏(ボランティア活動推進国際協議会事務局長)講演
- 12.18 活動報告会
- 2.17 サービスラーニングフォーラム

学 生 の 活 動 Report

2010.8.19

活動先 学童保育 ざりがにクラブ

本多 雄吉 眞野 佳奈実



- 👉 子どもの思いやりのある場面を見ることができてうれしかった。
- 👉 はじめは子どもへの接し方がわからず、とまどったが、子どもたちからも話しかけてくれ、仲良くなっていくことができました。

原田クラスの2人の学生が活動したのは、東海市加木屋町において30年ほど前から活動する、学童保育のNPOざりがにクラブ。

本多さんと眞野さんの8月19日の活動は、うどんづくりや流しそうめんの準備を通して、学年を越えた**子どもたちの協力関係やふれ合いの場づくり**を目的とした企画でした。

ざりがにクラブでも、かつてより思い描いていた流しそうめん企画なので、学生の提案を快く受けていただきました。理事長の鳴海さん自ら、近くの林で竹を切り出すなど前日よりその準備をしていただいていた。

自由奔放に走り回る子どもたち40名ほど、そして理事長、指導員、ボランティア、本学生を含めた7名の熱気で、部屋のエアコンもほとんど効かない中、当日のプログラムは動き始めました。

午前中は、**子どもたちと一緒に、うどんづくり。こねる。足で踏む。麺棒で伸ばす。切る。ゆでる。**また流しそうめんの麺をゆで、氷水につけ置くなどの主に厨房での活動が中心。その合間に学習の面倒をみたり、遊びの相手をしたりもしていました。

昼には、いよいよみんなで「流しそうめん＆うどん」。フルーツ、ハムなどトッピングも用意しました。6m程の竹に流れる麺を取りやすいように、子どもたちの右利き左利きを確認の上、くじ引きで3班に分け、班ごとに食べていくのですが、待ち望んだ子どもたちは一気に活気づき、さながら早食い競争のような状況。しかし徐々に落ち着きを取り戻し、子どもたちどおし譲りあったり、思いやる場面も多く見られました。学生はそうめんやうどんを流し込んだり、厨房から麺やつゆの補給に忙しく走り回っていました。



学 生 の 活 動 Report

2010.8.20

活動先 りんりん

新城 岳 竹富 康二
竹内 詩織



- 👉 高齢者と子どもたちが触れあうことができる施設環境をいかして、一緒になって楽しむ場づくりが出来たと思いました。
- 👉 高齢者の方々と接し方やコミュニケーションのとり方の難しさを、少し知ることができました。



石川クラスの3人の学生が活動したのは、童話「ごんぎつね」の舞台で知られる半田市 岩滑(やなべ)において、デイサービスや学童保育などで活動するNPOりんりん。

新城さんと竹富くんは、偶然にも沖縄の石垣島の出身で今回の学びで始めて出会ったそうです。竹内さんは知多半島の出身。この3人が考えたのは、沖縄をもっと知ってもらい、文化や芸能で楽しんでもらいたいという企画。日々のデイサービスや学童のお世話に加え、**沖縄の日というイベントをつくり**、利用者の方々にいっぱい楽しんでいただくことが目標でした。

8月20日は活動の最終日。午前中はデイサービスで活動。学生たちは、場所を変えながら利用者さんとお話をしたり、将棋をさすなどして、コミュニケーションをとっていました。12時から、配膳の手伝い、そして食事介助もおこなっていました。

食事後、いよいよ沖縄の時間です。学生たちは、**沖縄民謡で活躍する「稻三会」の稲嶺さんらの参加**を慰問というかたちで実現！高齢者の方々や子どもたち、またスタッフの方々が曲に合わせて踊り、一体となって楽しいひとときを過ごしていました。

13時過ぎ、高齢者の方々が帰られるのを見送り、すぐに掃除・片付けにとりかかり、20分ほどの休憩後、隣接する「学童保育りんごクラブ」で活動。沖縄のみで放送の戦隊ヒーロー番組のDVDを見たりして子どもたちと楽しみました。

★★★

👉 前日19日の沖縄の菓子サータアンダギーづくりは、大好評。利用者、スタッフ、学生がみんな一緒につくりました。学生の出身地企画のため、特に興味もひいたようでした。



学 生 の 活 動 Report

2010.8.27

活動先 知多地域障害者生活支援センター らいふ

桃平 瞳 藤原 久美子



工夫された「おでかけ」表示

松下クラスの4人の学生が活動したのは、障がいのある方やその家族が、地域の中で安心して生活し続けられるように応援することを目的に開設された、知多地域障害者生活支援センターらいふ。

学生は、日替わりで一人の子どもに寄り添い、子どもと遊んだり、日常活動(トイレなど)のケア、自立活動の支援に取り組みました。

8月27日は、桃平さんと藤原さんの2人の学生が活動。当日は、**障害児の日中一時支援**で小学生を対象にしていました。

午前中は、主に個室で子どもと遊び、この日の午後は、「半田空の科学館」へ施設の車でお出かけ。学生は、それぞれ一人の子どもに付き添い、一緒に行動。その様子は、打ち解けた感じで、子どもから笑顔も多くみられました。

帰りには、**近くのコンビニで買い物練習**。子どもたちは、それぞれ思い思いに商品を取り、あらかじめ与えられていたお小遣いの中から、レジで精算。学生は、その様子を見守りながら、支援や注意をおこなっていました。

15時には主に個室でおやつの時間。食べ終わった子を中心にテレビを見たり、絵を描いたり、おもちゃで遊んだりとさまざま。

16時、自宅へ送り届けるため、学生は子どもを車両に乗せて、見送り。別れの最後まで、子どもは学生に慣れ親しんだ感じで、仲よくしていました。



- 👉 毎日、担当する子どもが変わる。どの子どもも最初は、コミュニケーションがとれずに戸惑った。午前中一緒に遊んで、昼ぐらいから仲良くなれた。
- 👉 障害児のペースに合わせた支援が必要なこと、ひとつひとつの行動が自立へつながること。「らいふ」の活動がその家族への大きな支えになっていること。地域において、必要不可欠なことだと実感した。